

区の好きなおところ

（つながり・ひと）

- ・人が繋がり夢を語れる風土
日常生活や事業活動の垣根を越えて、繋がりを持てる機会を創出しながら、夢を語り共有できる風土を地域も行政も作り続けている。
- ・はっきり声に出して挨拶するところ。
- ・“おせっかい”と言いながら、そんなに親しくない人にも手を貸すところ
- ・人口の規模と、地理的な規模が丁度良い。人と人のつながりが起こりやすい丁度良い規模である。町会単位の祭りやコミュニティなど下町ならではの交流が残っている。
- ・人情味にあふれているところ。
- ・隣近所が仲が良いところ。
- ・おせっかいなおところ。
- ・良い意味でも、悪い意味でも狭いネットワークで顔が見える地域である。
良い意味では、行政、各団体との横のネットワークが築かれ、風通しが良い地域であること。悪い意味では、情報が意外と早く筒抜けになり、忖度する傾向にある。
- ・墨田区生まれだとわかると、「あなたは何小（小学校）出身？」と聞く。墨田区生まれ、墨田区在住者だけでなく、Uターンで戻ってくる住民も多く、気心が知れた付き合いができる人が多い。よそ者でも懐に入れれば、気さくに仲間に入れてくれる下町の良さが残っている街。
- ・自分の住んでいる所に昔の云われがある所があり、それを知るということは、その地域が自分にとって第二の故郷になり、地域愛になっていく。そして、「住んでいて良かった」となっていくものです。この意識が町会や老人会、地域意識に必ずつながっていくのだと感じています。墨田区の“人”のマークもそれを意識しているのではないのでしょうか。
- ・下町情緒が残っていて、地域の人々の繋がりができている。
- ・昔ながらの下町気質で、良い意味でのおせっかいができるところ。
共助の精神があるところ。
- ・人が繋がりやすい面積（区の面積が広すぎるとどうしても各地域事であつまりやすくなり、区内全体では繋がりにくい）。
- ・下町らしい地域のコミュニケーションがなんとか残っているところ。
（逆にどう残していくかが課題かもしれません）

（地域活動・イベント）

- ・こどもわくわくフェスティバル開催のように、墨田区が新しいことに挑戦している。墨田区をよくしたいと意欲的に活動する人が多く、ますます発展しそうな期待感を持つ。自分が墨田区のために区民として何ができるかを考えさせられる。これからも先進的な取り組みを率先して実施してほしい。
- ・市民の活動がとても盛んで活気がある。「すみだ向島 EXPO」「すみだストリートジャズフェスティバル」のような大きなイベントが市民の手で行われていたり、多くの団体が活動していたりする。子どもの分野においても、墨田区の団体が中心に日本放課後学会が生まれ、ハロカルといった取り組みが始まるなど、今後、全国的にも注目されるエリアになると思われる。

- ・地域コミュニティの数やイベントが、他の地域に比べて多い。
- ・お祭りが多い。
- ・古くからある“しきたり”などは薄れてきたが、自分のまちを愛し、清掃、防犯、防災、防火などに高齢者も含めて若い人達も一緒に取り組んでいる。

改善すべきところ

(つながり・ひと)

- ・自分のエリア（例えば町会）以外には割と冷たいところ。
- ・後からの住民を「ヨソモノ」と思い、態度が違うところ。
- ・自分の周り、自宅の周囲、地域の課題に目を向けること。
(集合住宅がたくさん建設され、身近な地域の歴史、文化、暮らし方などで、行き違いやズレが生じることが、問題や課題への無関心につながっている。)
- ・地域のコミュニティーをもう少し開かれたものにしたい。
(生まれ育った街を愛し、誇りを持つことは素晴らしいが、それが敷居の高さにつながらないようにしたい。)
- ・下町人情の雰囲気、人とのふれあいという面において、新しい人口が流入する昨今の状況の中で、下町の良さや区民同士の交流などのまちの雰囲気を維持・発展させていくこと。
- ・墨田区の歴史や地元に対する想いが強い一方で、転入者や外国人などのよそ者に対しての声を取り込めていない。よって、創造的な未来を考えることができていない。
- ・ワンルームマンションの増加で地域に関心の低い住民が多い宅地化が進んでいる。
一方で、町会は転入者の加入も少なく、役員などは成り手もなく高齢化している。働き盛りは、住宅費がかかりすぎるため転出してしまう。地域イベントや行政活動支援などに係る地域力は低下していると感じる。
- ・今後増えていきそうなのが、新旧住民の軋轢。キラキラ橘商店街で車庫付き住宅の建設反対運動が起きたが、地域との交流が難しい集合住宅などが増えていくと、こういうケースはどんどん増えていくだろう。浅草の観音裏の辺りに住んでいる人が京島を見て「これは 10 年前の浅草の姿だ」と言っていた。今の浅草は、地域との交流を求めている人たちが、交通アクセスや生活のしやすさだけで住み始め、問題になっている。
「墨田区はこういう町」というビジョンを明確にしていけないと、今の墨田区の文化や地域社会を維持していくのは難しいのではないか。
すでに指摘されているように、ジェントリフィケーションの問題もある。特に一部の地主が支えている京島地区などは、今の地主さんが亡くなったら、一気に開発が進んでしまう可能性があり、今の墨田区の良さが失われてしまう不安を感じている住民も少なくない。
- ・地域社会の「つながり」や地域に対する「関心」が希薄化しているので、関心を持って生活することが大切だと思う。

(防災)

- ・ハザードマップを見ると、墨田区、荒川区、足立区などは浸水被害や火災被害の危険度が高い。具体的な対策は進んでいるか。
- ・災害対策。密集しているため、震災の危険性が高い。古い木造建物密集する地域では、耐震性が低く、

延焼しやすい建物が多く残っている。こういった既存不適格や建築基準法違反の建物を事業として利用する事業者や地主に毅然とした対応が必要と思う。

- ・災害に弱い（地形的に）。
- ・さまざまな災害の対応。
- ・空家問題。
- ・天災に対して不安がある。荒川や隅田川の氾濫による水害、住宅密集地域での地震による被害は脅威。工場や住宅地での火災も被害が大きくなりそうで怖い。災害が起きたときに被害を最小限にするための対策や避難時の衣食住の確保に今まで以上に力を入れる必要があると考えている。
- ・防災に関しては、ハザードマップで最悪な状況が想定されるにもかかわらず、遅々として改善が進んでいないこと。道路の拡幅や建物の耐震補強等公助としての発信が弱いこと。
- ・北部には狭隘道路も多く、災害時の対応に難しさがあると感じる。相当数の住宅が建て替えが進み、さらに区画整理など抜本的な対策を講じにくくなってきている。それゆえ、より充実した避難所の準備が必要と思う。
- ・防災対策
近隣に木密地域が残っており、災害時の対応をもう少し、現実的に即したものにする必要があると思われる。
- ・町並みは急速に変化し、人口も増え、多くの防災等に取り組みが行われたが、住民の高齢化が進み、その対策が考えられるが大きな災害が起こった時の対応が心配です。（能登半島地震の経過を見て）

まち全体として大切にしていけるべき理念

（つながり・共生）

- ・誰も孤立させないまち。
- ・墨田区は下町情緒あふれる街だと思いますが、近年タワーマンションや集合住宅が多く地域のコミュニティが薄れていると思います。そこで地域のコミュニティを活性化し共生社会が実現できる街づくりが理想だと思っています。
- ・コミュニティ強化のためにも、地域活動の担い手である町会・自治会の影響力を強めていくべき。
- ・まち（地域）、人情等を大切に、町内住人などとの繋がりを強化し、人と人との交流を深めるべき（地域の清掃ボランティア活動を通じて）。
- ・区内在住者・来訪者ともに「ここちよく」暮らし、過ごすことのできる「人」中心のまちづくり。
- ・歴史や自然を意識して日常やイベント参加（例えば「お祭り」）などに楽しく豊かな気持ちで暮らしていける町。
- ・様々なまちづくり活動を横に繋ぐネットワーク組織が必要ではないか。

（安心・安全）

- ・安心安全ファーストのまち。
- ・災害に強いコミュニティ、インフラと建築などの基盤整備。
- ・住民協働により安心安全なまちづくり推進に向けた意識の醸成。
- ・車中心ではなく、歩行者や自転車に優しいウォークアブルな道路空間が必要。

人として大切にしていけるべき理念

- ・道端で「あいさつ」を交わす隣人関係。
- ・さまざまなコミュニティのレイヤーの重層化。
- ・墨田区内における各分野のイベントを通して人と人を結び付けられるようにしていきたい。地域で住民が参加でき、人と人が行き来できお互いを知ることができる場を設けていきたい。
- ・単身世帯が増えていく現状、墨田区へのシビックプライドを醸成できるよう、いろんなことに参加しやすい環境を作る。
- ・人の繋がりを中心とした地域のネットワークをどのようにかたちにしていくか。
- ・古くから言われている向こう三軒両隣の精神のもと日常親しく近所の人と交際することが欠かせない。
- ・隣近所との地域活動を密にし、家と家の隙間を交流の場として感じる関係性が深まることが大切です。そのためには、地域での普段の生活の中で、顔を合わせることが増えるコミュニティ作りが必要となります。プライバシー確保、個人情報保護という流れの中で、お互いを知る機会が減りつつありますが、お互いの顔が見える地域活動を通してお互いを知る機会を増やすことが可能となります。防災活動、祭り、餅つき、こども夜警、花火大会、リサイクル運動等を通して、知るきっかけが増えることが大切だと思います。
- ・「人 つながる 墨田区」というシティプロモーションで作成された言葉は、すでに多くの区民に認知されているので、基本構想の中でも大事にしていけるべきだと思う。
- ・1人1人がこの町の一員であり、主人公であると感じられること。
- ・自分たちが住みやすいまちをつくるというマインド。
- ・区の皆様が一人一人、ゆとり、うるおい、やすらぎに満ちた地域づくりに努力すべきと考える。
- ・自主的であり自己肯定感を維持しながら各々が暮らしを楽しむ気風。
- ・行政に任せるだけでなく、一人一人が子育てや介護を支援する意識の醸成を。
- ・すみだに関わる人がそのこちよさを実感し、つながっていく中で、当事者として能動的に発信していくこと。
- ・助け合いの精神。
- ・共助の発想が普通に備わっていること。
- ・お互いに思いやりをもって暮らすこと。
- ・老若男女、国籍関係なく集まってくる人たちを歓迎する。
- ・誰もが（ひとりひとりが）その人らしく、この町で豊かに生きられるよう、互いを尊重し合えること。
- ・新旧の住民がお互いの違いを尊重して、自分の地域の知識を（区報・ホームページなどで）得て楽しい気持ちで暮らすこと。